

【知事コメント】

「麦わらの一味」の仲間たちの像の設置場所について

- 本日、「麦わらの一味」の仲間たちの像について、設置場所を発表いたします。
- 「令和」という新たな元号とともに、将来にわたって熊本の宝となるビッグプロジェクトが始まることを大変嬉しく思っています。
- このプロジェクトは、熊本の復興を手助けしたいという尾田栄一郎さんの思いから始まったものであり、麦わらの一味「ヒノ国」復興編と名付けました。
その名前のおり、熊本地震の甚大な被害を聞きつけた船長ルフィが、仲間たちに被災地の復興をそれぞれの特技で手助けするよう指示したところから物語は始まります。
- どのキャラクターがどの市町村の手助けにいくのか、私たちも大変悩みました。
そして、先日公表した複数案の中から、有識者の意見も踏まえて、市町村からの提案を重視した「A案」に決定いたしました。
- この決定にあたっては、1つ目は、国内外から訪問される方が周遊しやすいよう、被災地を中心にコンパクトに配置されているか。
2つ目は、キャラクターの特徴を活かした親しみやすい復興のストーリーになっているか。
3つ目は、震災ミュージアム構想と連携し、熊本地震の経験や教訓の伝承に寄与するものであるか、といった3つの観点で総合的に評価をいただきました。
- いずれの案も、甲乙つけがたいものでしたが、復興を力強く進めていくという考えのもと、集英社の皆様や尾田さんにも県の案に了解していただき、今回の決定に至ったものであります。
- それでは、市町村からの提案をベースに作成したキャラクターごとの復興のストーリーをご説明いたします。
- 麦わらの一味の「船医」であるチョッパーは、熊本市の動植物園に駆け付け、避難を余儀なくされた動物たちのケアや、来園する子ども達のお迎えに力を貸してくれます。
- 次に、「料理人」サンジは、給食センターが被災した益城町に駆け付け、子どもたちのために腕を奮ってくれます。
- 「戦闘員」ゾロは、武道場の被災をはじめ、生活が一変した大津町に駆け付け、地震に負けない町づくりを目指し、子どもたちと修行に励みます。
- 「音楽家」ブルックは、音楽大学や多くの住宅が被災した御船町に駆け付け、特技の音楽とジョークで、住民の皆さんの心の復興を後押しします。

- 「航海士」ナミは、集落単位で大きな被害を受けた西原村に駆け付けます。被災した村のシンボルの風車と、全集落のコミュニティ再生と復興に、応援の風を送ってくれます。
- 「考古学者」ロビンは、震災ミュージアムの拠点・東海大学がある南阿蘇村に駆け付けてくれます。熊本地震の歴史や教訓の語り部として研究を重ね、多くの方に語り継ぐ手助けをしてくれます。
- 「狙撃手」ウソップは、緑の草原が大きく傷んだ阿蘇市に駆け付け、自然を操る道具で、住民の誇りである阿蘇の草原再生に力を貸してくれます。
- 最後に、「船大工」のフランキーは、被災した南阿蘇鉄道の終着駅がある高森町に駆け付け、海列車を作った師匠トムのように、住民の希望となる列車の再開に力を貸してくれます。
- いずれも、キャラクターの特技を活かした手助けであり、熊本の復興にとって、大きな応援になるものであると確信しています。
- 今回のプロジェクトのスタートとして、あさって19日金曜日の午後2時に、県と集英社による覚書の締結式を行います。
その際、先日の記者会見で発表した、山鹿灯籠による海賊船ゴーイング・メリー号を、制作者の中村潤弥さんから集英社の代表者に贈呈していただきます。
- 今回の仲間の像については、キャラクターの数に限りがあり、すべての市町村で設置することはできませんでしたが、像が設置されなかったから、その市町村の地震被害が無かった、または、小さかったということではないということを、改めて申し上げたいと思います。
- 熊本地震は、広く県内全域に被害が広がっており、県民が総力を結集して復興に取り組むものだと考えています。
- 今年度設置する4体は、19日の覚書締結式の際に発表しますが、像の設置が決まった市町村においても、その市町村での復興はもちろんのこと、周辺市町村との連携や県内横断的な連携にも力を注いで欲しいと思います。
- 県も、今後の復興プロジェクトの中で、像が設置されなかった市町村にも、その効果が波及するよう、様々なアイデアを考えていきたいと思います。
- ワンピースの物語のように、同じ船に乗る仲間として、県民の皆様や各市町村の皆様、そして、作品を愛するファンの皆様と力を合わせながら、この復興プロジェクトを進めて参ります。
- 最後に、客観的で公正な立場からご意見をいただいた有識者の皆様、そして、何よりもこの夢のプロジェクトを認めてくださった尾田さんと集英社の皆様に深く感謝し、新たな冒険への船出といたします。

(以上)